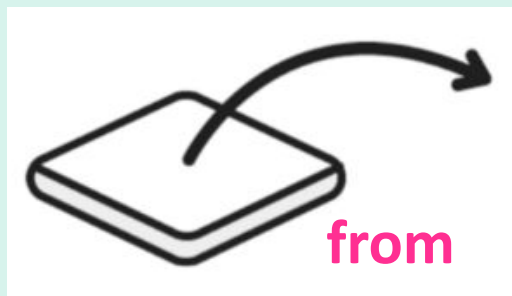


<前置詞> fromの世界

CORE IMAGE



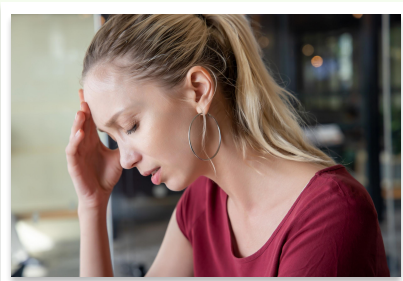
物事の起点を示して

Wine is made from grapes.



from は日本語の「.....から」に相当しわかりやすい前置詞ですが、意味展開については注目しておきたい点があります。まず、from のコアは「物事の起点を示して」です。

基本は「動作の起点」を表す場所的な使い方です。



When I got up **from** the table, I felt dizzy.

テーブルから立ち上がったとき、めまいがした



Now, we have a report **from** the scene.

現場からの報告です

from A to B で使われることが多く、**How far is it from here to the nearest station?** と
例えば、「ここから最寄りの駅までどれぐらいの距離ですか」という意味です。また、**from A to
B** の形式で、AとBに同じ語を反復することで、**from hand to hand** (手から手へ)、**from
door to door** (ドアからドアへ)、**from place to place** (場所から場所へ)、**from
generation to generation** (世代から世代へ)といった表現を作りだします。ここでも「起点」
の意味が生きています。



How far is it **from** here to the
nearest station?

ここから最寄りの駅までどれぐらいの
距離ですか



from hand to hand

手から手へ



from door to door

ドアからドアへ



from place to place

場所から場所へ



from generation to generation

世代から世代へ

意味の展開

from の「物事の起点」というコアは、次のように応用されます。

「起点としての出自・出所」を表す例



I heard the scary story **from** a woman I work with.

一緒に働いている女性からその怖い話を聞いた



She came **from** a traditional Chinese family.

彼女は伝統的な中国の家庭の出身だ

「距離・隔たりの 1 点」を表す例



My house is just 500 meters (away) **from** hers.

僕の家は彼女の家からたった 500 メートルのところにある

「物事の始まりの時点」を表す例を表す例



The final game is **from** 8 p.m.

決勝戦は 8 時から始まる



We are open **from** Monday to Friday.

月曜日から金曜日まで開店しています

これらはすべて「.....から」という理解で問題はありません。同じ「出自」でも of の場合は「帰属」を前提とした「出自」であるのに対して from の場合は「起点」としての「出自」です。「時間の起点」の from は過去・現在・未来のいずれの時間にも使用することができ、**from yesterday**、**from today [now]**、**from tomorrow** はいずれも可能な表現です。ただし、接続詞の用法はないため、「若かった時から」は **from the time I was young** のように表現します。

少しわかりにくい意味展開をするのは「素材」と「原因」の from です。

「素材」を表す例



This cake is made **from** rice and beans.

このケーキは米と豆を原料にできている



Wine is made **from** grapes.

ワインはブドウからできる

「原因」を表す例



Nobody wants to die **from** working too hard.

誰も働き過ぎで死にたくない



The disease cannot simply come **from** one virus.

その病気はひとつのウイルスが原因だとは考えられない

「素材」の意味では out of を使うことも可能で、This cake is made out of rice and beans. や Wine is made out of grapes. と表現することができます。out of だと「何かが.....から出てくる」という感じであるのに対して、from だと「何かが作られるもと」を表します。

「.....が原因で死ぬ」という場合、die of cancer (ガンで死ぬ)、die of hunger (飢え死にする) のように die of が一般的です。of は原因と死が切っても切れない関係を表すからです。die from は前ページの die from working too hard のように「過労」が起因となって、ある経過をたどって死に至るという意味合いになります。つまり、起点なのでなんらかの経過をたどってという意味合いが from にはあります。そこで「弾の傷が原因で死ぬ」という場合は **die from gunshot wounds** といいます。もちろん、死因が直接的か間接的かは難しい問題で、原因によって of か from が決まるわけではありません。むしろ、「そもそものもととなる原因」なら from を、「(過程を考えないで)直結する原因」として表現する場合には of を使うと考えるのが妥当だと思います。そこで **die from cancer** という言い方も可能です。ただ、その場合、病気を患った過程が連想されるでしょう。



die **from** cancer / die of cancer

ガンで死ぬ

from は「判断のもと」を表現する際にも使います。

「判断のもと」を表す例



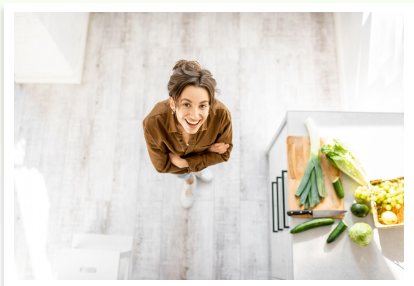
From one point of view, you are right.

ある視点から見れば、君は正しい

be different from は **She is different from me in many respects.** (彼女は私とは多くの点で異なります) のようによく使われる連語ですが、この from は相違の基準(元)を示しているものといえます。

最後に、構文的に、from には副詞(句)や前置詞句を目的語にして「物事の起点」を表す表現があることにも注目しておく必要があります。

副詞(句)や前置詞句を目的語にして『物事の起点』を表す例



from above

上から



from among the crowd

群衆の間から



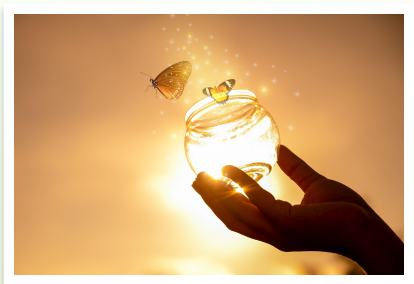
from far away

はるか遠方から



from under the table

テーブルの下から



from within

内部から